

安比ブナ二次林の全体概要と魅力

岩手県北部に位置する八幡平の安比高原では、自然に再生した 100 ヘクタールにわたるブナ林を見ることができます。数世紀前、この地の森林の木材は木炭の材料としてだけでなく漆器の素材として伐採されました。その漆器は、地元の伝統工芸として今も継承されています。森と共に暮らす地元の人たちは、必要な木材を伐採すると、古い木を伐採した場所で苗木を育てようとしていました。

今日この地に生えているブナはいわゆる二次林で、1930 年代に木材利用や木炭作りのために伐採された成木が落としていった実から育った木々です。まだところどころに生えている母樹を探してみてください。大きいのですぐにわかります。二次林の木々が成長し、その幹廻りや樹高が成熟した森林に見られる木々のサイズになるまでには、100 年もの歳月がかかることもあります。そして、やがては今生えている木が新たな命をつなぎ、再生のサイクルがふたたび始まるのです。安比のブナ林は、一年中いつでも自然の驚異を見せてくれますが、特にすばらしいのは初夏のみずみずしい新緑の頃と葉が黄金色や赤銅色に色づく 10 月初旬です。トレイルには木材チップを敷いているため、車椅子の方にもこの地の自然の恵みを楽しんでいただけます。

生態環境の点から見ると、ブナの木には高い保水力があります。ブナ林の甘く清浄な空気は、ブナの木が吸収しゆっくりと周辺環境に還元する雨水によってもたらされます。ブナの実、リスからクマまで多くの動物の好物です。八幡平の安比ブナ林の中には、樹皮にくっきりとクマのかぎ爪の跡が残っている木もあります。この林は、馬や牛とも密接なつながりがあります。何世紀にもわたり、この辺りの家畜に笹を食べさせることで、笹藪の侵食を食い止めてきたのです（成長の早い笹の藪は高く伸びて日光を奪い合い、小さなブナの稚樹の生育や根付きを妨げることがあります）。ガイドを雇ってこの森を散策すると、この地の生態系に関するさまざまな側面について英知を結集した新たな世界が見えてきます。詳細については、八幡平市観光協会にお問い合わせください。